

わゆるギャンブル依存と言つてもその対象はいくつかあり、そもそも開始年齢は何歳だろうか。多数の著書があり、信頼ある精神科医が開設している心療内科クリニックにとても参考になるデータが保存されていた。2年間の調査を平均すると開始年齢は20・2歳。そしてこの年齢層がのめりこんだのはパチンコ・スロットという結果だった。20歳と言えば職業生活の始まりであり、大学生なら将来を見つめて勉学の真最中。さらにデータをひとくど、借金の平均開始年齢は27歳、精神科受診は39歳。簡単に結論付けることは適切ではないかもしれないが、20歳で人生に暗い影がしひびこみ、7年後には借金、20年後にやつと専門医に助けを求めている、という構図が浮かんでくる。のめりこみの対象も、年齢が上がるとともに、パチンコ・スロットだけではなく競馬や競輪、競艇へと広がっていることもデータが示していた。

パチンコ依存

—新相談現場からの報告—

柏木 勇一

産業カウンセラー

ひとり息子が大学を中退 実家に戻り引きこもりに

夜勤が多く週末出勤も妻との間もギクシャク

し実家に帰つてひきこもっている、親としてどうしたらしいか分からぬ、ということは後でわかつたこと。夫と妻、父親と息子の間にいつの間にか生じていた闇。ごく普通の家庭の中にも暗部があつたことが伝わってくるケースだった。

地方の町で生まれ育ったAさんは自身は、両親ともに病気がちだったために、高卒で家から車で通える距離にある工場に就職して30余。小さい時から機械いじりが好きだったため、工業系の専門学校に進み、生まれ育った土地から離れて都会で暮らすのが夢だった。しかし、兄弟もなく、親の面倒を見なければいけなかつたので、希望は叶わなかつた。ひとり息子には最終学年まで進学してほしい、と夢を託し、入学費や授業料を何とか捻出した。Aさんの父親は地元の農協職員だった。一家が食べるだけの米や野菜を栽培する田畠での農作業は主に母親の仕事だった。それは受け継がれて、両親が

亡くなつた後の、現在の畠仕事は主に妻が担つていた。妻は父親と同じ農協で働き、周囲の勧めもあって結婚、M君を授かつた。

工場でのAさんの業務は、製品が仕上がる前の原料調整。シフト勤務でどちらかといえば夜勤が多くつた。土日勤務もあつた。役職には縁がなく、ずっとヒラ社員だつたが、そのことが原因かどうかは分からぬが、妻との関係は疎遠になり、孤独な日々だつた。

息子の将来を心配していつの間にか体調悪化

それだけに、中途退学して家に戻り、ひきこもり状態になつた息子M君の挫折は、自分自身の内部にも響き、いつのまにか体調も悪化させた。ポツリポツリと語るAさんの苦悩、心の内は痛いほどよく分かつた。

息子がこのまま家にこもつてしまつたらどうなるのか。もう普通の社会生活はできなくなるのではないか。何でもいいから農協を通じて仕事を探すことや、家の周囲には少ないがコンビニでアルバイトはできないか、とも考えた。父親としての責任を感じ、不規則な

工場勤務で息子との話し合いが少なかつたことも後悔した。いろいろ伝手を頼りに動こうとしたが、「息子は立派に大学に入ったんじやないの?何かあったのか」という地域住民の反応も予測できた。あ

あしょーか、こうしょーか、しかし待てよ、と考えは堂々巡りしていく一方だつた。息子との会話を壁を作つた自分を責め、職場でもうだつが上がらないと勝手に感じ、定年も遠くはない年齢になつた——そんな思いが交錯し、もう工場に行きたくない、という否定的な考えが広がつていつた。ひ

よつとしたら自分もこのままひきこもつてしまうのか、という恐怖も感じていた。その都度自分の手で頬を打ち否定した。

解決策が見出せぬまま連夜の飲酒、量も増え

ひきこもりは年々社会問題として対策が叫ばれ、医療機関や民間団体などが手を打つてゐるが、これといった成果は出ていない。内閣府が毎年調査しているが、最新の統計で明らかになつたのが40~64歳の中高齢者が17%と多くなつたこと。推定61万3千人になる。

20~24歳の13%とそれほどの隔たりはない(年代別ひきこもりの現状は内閣府調査結果参照)。M君は20代、Aさんは50代。ひきこもりの原因是、退職、人間関係、病気が上位を占めていることも調査で明らかになつた。Aさん自身、高齢のひきこもりは珍しくない

若者のひきこもりは珍しくないことは、Aさん自身慣れないネット検索で知つてた。自分は老いていくが、息子も同じように歳を重ねてこのままだつたらどうしよう、などと考え、落ち着かない日々が続いた。そんなに飲めない体质だつたが、解決策が見出せない苛立ちから、いつのまにか毎晩の飲酒になり酒の量も増えていつた。

実は、このやるせない思いは、息子のひきこもりだけではない、とAさんには確信に近い思いがあつた。もちろん誰にも話せない。それが苦しかつた。それはここ数年、あるいはもつと前からかもしれない、妻のよそよそしい態度が気になつていていたのだ。シフト勤務なので、家族そろつての食事や団欒などからは縁遠かつた。このままで、他の夫婦のように和やか

な関係は築けないと感じていた。妻に自分から話しかけられない理由を不規則な勤務のせいにする、逃げている自分がいた。

妻への不満のはけ口か息子に向かつて大声を

ある日、非番の夕方、Aさん一家をズタズタに引き剥がすような出来事があつた。Aさんは昼から飲酒をしていた。珍しく家族3人が食卓を開むことが出来る、夫と2人だけではない状況、つまり息子も一緒に夕食の支度をしていて、妻は夕食の支度をしていた。M君が大学を断念して帰宅してから半年近い。3人一緒の食事は珍しかつた。

母と息子が親しげに語り合う姿を見て、Aさんは、息子に向かつて大声を上げた。Aさんが長く内部に抑え込んでいた妻への不満のはけ口として爆発した。

「今までボケッと暮らしてゐるんだ。せつかく大学まで行かせたのに。アルバイトぐらい出来ないのか。コンビニでもいい。探せば働き口はあるだろう」と酔つた勢いで息子を責めた。

離れて暮らしているので直接話せない。説得できない。逆効果も心配した。どこかに行つてしまふか、一番怖かったのは自殺するんじゃなかとかえ思つた。だから、小遣いは結構増やして送金した。そこのうち、こっちの気持ちに気づいてやめるだろう、と勝手に思つた』『ご免。自分が悪かった。振り込まれた授業料は2年目からは学校に払つていなかつた。みんなパチンコに消えた。学校からは授業料滞納で退学勧告も出た。だから、母さんから家に戻つてくるように、という手紙を読んだ時、ただただ涙が止まらなかつた。帰つても何の当てもないし、本当にこのまま死んでしまいたいと思つた。そりやそうだよね。悪いのはこの自分だから』

「何もしなくともいい。でも帰つてきてほしかつた。また一緒に暮らしてそこから出直ししてほしい、と思つてメールや電話でなく手紙にしたの」

『深入りはしなかつたが
「孤独癒す場所だつた」』
そんな会話の後で母親は、本当に聞きたかったことを口にした。

「お父さんがパチンコやつているつて、この前言つたでしよう。それって本当なの。どこでどの店で見つかったの。いつの話なの」と畳みかけるように質問してきた。

『「ごまかさないで答えなさい」「小さな町だからパチンコ店は限られている。平日の昼過ぎだったかな。小一時間ほど遊ぼうか、と金額を決めて入つた。客は少なかつた。台を選ぼうと通路を回つた時に親父を見つけた。顔を合わせてはまずい、と思つてすぐ店を出た。その後は俺も通つていないので、続いているのかどうかは分からぬ。たまたまだつたかもしれない。たまたまだつたかもしれない』

『親子つて似るのかね。やつぱり』『違うだろ、それは。俺が小さい頃から親父がパチンコにはまつていてたらつながるかもしれないけれど、そんなことはない。遊びなんか知らない真面目な親父だつた、と思う』

『母子の会話は深入りしないで終わつた。』
実は、Aさんはパチンコ店でチラツとM君の姿を見ていたことを知つた。なんだ店を覗いたことを知つていたのか、とM君も気づき互いに小さく笑つた。大学には行かな

「お父さんがパチンコやつているつて、この前言つたでしよう。それって本当なの。どこでどの店で見つかったの。いつの話なの」と畳みかけるように質問してきた。

『「そんな話したつけ」「ごまかさないで答えなさい」「小さな町だからパチンコ店は限られている。平日の昼過ぎだったかな。小一時間ほど遊ぼうか、と金額を決めて入つた。客は少なかつた。台を選ぼうと通路を回つた時に親父を見つけた。顔を合わせてはまずい、と思つてすぐ店を出た。その後は俺も通つていないので、続いているのかどうかは分からぬ。たまたまだつたかもしれない。たまたまだつたかもしれない』

『Aさんは、妻と疎遠になつた関係を含め、およそのことが分かつた気がした。様々な家庭内の出来事、違和感もこの日のような会話が絶えていたことで生じた、と思つた。最後は「今になつていろいろについて、Aさんは以前から近所の世話人のような存在の知り合いに相談していた。

隣町に進出してきた製薬会社の工場が契約社員を募集していることを教えてくれた。短期間ということ、通勤にちょっと時間がかかるが応募してみてはどうか、という話だつた。短期間を敬遠して応募者は少ないかもしれないが、働き方次第では長期に、そして正社員になることだつてありうる、という知人の話をそのまま伝えた。M君は乗り気だつた。父と息子の久しぶりの会話だつた。

Aさんは、パチンコにはあれから行つていない、と『告白』した。なんだ店を覗いたことを知つていたのか、とM君も気づき互いに小さく笑つた。大学には行かな

柏木勇一
(かしわぎ ゆういち)

大学卒業後、会社勤務を経て、現在はEAP企業(Employee Assistance Program)でカウンセラー及び研修講師として活躍。産業カウンセラー。